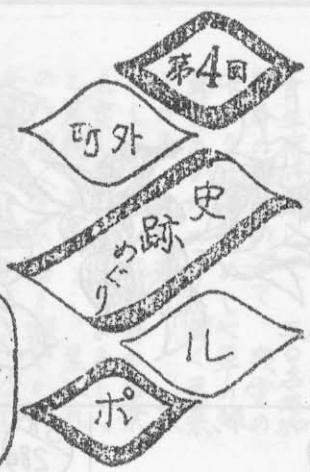


酒々井町郷土研究会々報

第7号
昭和53.6.27
発行
酒々井町郷土
研究会総務部



芝山方面見学記



今回は芝山方面、第一日目に
参加したことを思い出すままに
憶い起して書き並べる。

当時の中央より離れた北総台
地の史跡にも見ておくべき
知っておくべき処のたくさんあ
るのには心強いことである。こ
まめに灯台下暗しで知らない事
ば多く残っていて、不明と取入
りかたりに、バス故障の憂
日程延期になったが、(1/1、1/2)
幸いなことに杯は満開、暮ら
まんの好季節に見学できたこと
は何よりであった。

水野葉舟歌碑

葉舟といっても若い人に
は通じないかも知れない。大
正末期から昭和初期にかけて
北総の地に文学運動を起して
活躍した人である。当時の七
葉会員も大半は出羽境を異に
し、残った人もお希まのお婆さ
ん、今更なごらるる。葉舟の
早々に驚かされる。葉舟が
三里塚に終り六十年、没後三
十年、正に史跡である。板の
大木が当時の佛を伝へるのみ
である。酒々井では押尾考の
岩沢六里氏等が身辺に近か
たと記憶するが、二人ともこ
の世に居ない。

芝山に王尊 芝山にはわ博物館

老武人(姫塚古墳出土)



広い境台は桜が若開であった
小学生の遠足の子等が群れ遊ん
でいた。大盃で酒を頂いたこと
を思い出した。中風にならぬ呪
いとか、現在もあると思う。
立派な三重の塔、相輪と立ち
御々山間の地に聳える感じであ
る。大量の殿塚より出土した
た博物館の多岐の人物や動物が
約五十メートルにわたりの場
語られていて、葬送行列の場面
にわの表情の一つ一つに感情が
ある。美にいい顔をして居る
死の習慣と絶つたための身替り品
なのかが、と考えながら、あ
ずながめ回ることばし。
元酒々井町本庄倉に在った一
芝山に王道一の道標が前庭に放
置されてある。いつ、誰れが
と人々口にしながら見ている。
複雑な思い胸に残る。

竜尾寺

和銅二年聖武天皇の御代に雨乞い
の祈禱をした処、満願の日に一頭
の竜が現われ七日七夜の大雷雨を降らせ
その竜の身体が三つに裂けて、頭の
落ちた所が栗町の竜尾寺、腹の落ち
た所が仰満村の竜腹寺、尾の落ちた
所が竜尾寺。正にスケールの話で
大きい話で縁起としては抜群の話で
沖繩あたりにはある、島と島をひと
またぎにしているという巨人伝説に
通ずるものがあり息抜きになる話。

飯高檀林

日蓮宗の修業道場という境内には
走彩がうろうろと繁り、夏尚涼し
感、悟りを開くには斯る環境が必
だつたのかも知れない。

この後壇谷のしだれ桜と見学
あまりにもみごとく美しい桜に感激
たに、感たんの声あるのみ。

考えさせられることは昔の「信仰
してある。医学も科学も未発達の中
て人々は必然的に心の安らぎを信
に求めたのではなからうか、神仏の
加護が唯一の救いであったのかも
れない。無病(災患)を祈り、商売繁
昌を祈り、百里の道と遠しとせず
一念発起参詣に赴いた。その中に
は村の代表も、講中の代参もあつた
はづだ、宿願の参詣をすませた
の後のさわやかな考時の人々の思
いと心に澄みかべながら、終筆。

本堂の軒端にありて花咲ける
早夷の立ちて冴之増す古刹

